

カトリック

広島教区報

No. 136

カトリック
広島司教区

発行責任者
広報担当
服部大介神父

「点訳版」あります。
お問い合わせください。

広島市中区鞆町 4-42
広島司教区内
TEL (082) 221-6017

司教メッセージ
叙階式
教区の動き・J-CARM 広島便り・乙女峠まつり
海峡からの風・地区便り
青少年・ひと粒

1〜3面
4〜6面
7〜8面
9〜11面
12面

「ともに歩むあたたかさのある教会」を目指して

―世界シノドスの歩みとともに―

広島教区 アレキシオ 白浜 満 司教

主の復活のお喜びを申し上げ、神からの恵みを、皆様の上にお祈りいたします。

はじめに

今年、ちょうど3月31日が主の復活の主日にあたっていたため、翌日4月1日から今年度もスタートしました。今年も広島教区のために、



叙階式ミサの終わりに、廿日市教会信徒会長の有野さんから花束を受け取る星野新司祭

星野新司祭の誕生という大きな召命の恵みを与えてくださった神に、ともに深く感謝をささげましょう。これはまた、教区民の皆様、とくに司祭召命を祈りと献金によって支えてくださっている一粒会の皆様のお陰でもあります。そして、新司祭の出身教会の役割を担ってくださった廿日市教会、また、休暇中に司牧実習先として星野さんを受け入れてくださった観音町教会の皆様にごめまして、心より御礼申しあげます。教区民の皆様、どうか引き続き、星野新司祭をはじめとして、教区で働くすべての司祭のために、また、新たな司祭召命のために、今後とも教区民の皆様のお祈りとご支援を、どうかよろしくお願いいたします。

主のご復活おめでと〜ごぞいませ

教区本部事務局

野中 泉 神父

(中央協議会・東京) 原田豊己 神父

(留学・韓国) 尹 兌榮 神父

(英語研修・フィリピン) 三宅仁孝 神父

平和の使徒推進本部

瀧井英昭 神父

(司教館庶務・向原住任) 猪口大記 神父

(ベトナム人の宣教師担当) テエ

(日本語研修) 全 東賢 神父

広島地区

(地区長) 荻原代治 神父

山口県根地区

(地区長) 山口道晴 神父

岡山鳥取地区

(地区長) レイモンド 神父

◇広島中央協働体(観音・向原東広島・翠町) 長

(観音・向原住任) 荻原代治 神父

(観音・向原住任) 伊藤正広 神父

(東広島住任) 朴 鍾錫 神父

(翠町住任) 福田誠二 神父

(空住任) パート 神父

◇西広島協働体

(観音町・二篠・廿日市・祇園・可部) 観音町住任 瀧井英昭 神父

(三篠住任) 福田誠二 神父

(廿日市住任) アルベルト・ベッラ 神父

(祇園住任) 李 相源 神父

(備後協働体(三原・尾道・福山・三次) 三原住任 フレデリック 神父

(福山住任) 金 起煥 神父

(尾道住任) 西江和司 神父

(三次住任) アルナルド 神父

◇山口協働体(山口・地福・防府・萩) (山口・地福住任) アルフレド 神父

(山口助任) カンガス 神父

(山口助任) ヴィタリ 神父

(防府住任) 外川直見 神父

(萩住任) アレックス 神父

◇下関協働体(細江・彦島・長府) (細江・彦島住任) 道彦宗三 神父

(細江・彦島助任) トアン 神父

(長府住任) 百瀬文晃 神父

下関労働教育センター (所長) 中井 淳 神父

(協力) 林 尚志 神父

◇宇部小野田協働体(宇部・北若山・高千穂) (主任) 片柳弘史 神父

(協力) アルテリオ 神父

◇岩徳協働体(宍戸・光・柳井・徳山・下松) (宍戸住任) 柳井協力 久保裕己 神父

(光・柳井住任) トウアン 神父

(徳山・下松住任) 山口道晴 神父

◇伯耆協働体(松江・出雲・米子・境港) (松江住任) 野中 泉 神父

(山陰地方の協力) 松江住任 野野一夫 神父

(出雲住任) アルベルト・ジャルト 神父

(米子・境港住任) ダン 神父

◇石見協働体(津和野・益田・浜田) (津和野住任) 山根敏身 神父

◇岡山協働体(岡山・ロザリオ岡南・玉野・津山) (岡山住任) 服部大介 神父

(岡山助任) 星野倫淳 神父

(岡山南住任) ロイ 神父

(玉野住任) 沈 相淵 神父

(津山住任) ジョン 神父

◇倉敷協働体(笠岡・倉敷・玉島・水島) (笠岡住任) プルニ 神父

(倉敷・玉島・水島住任) レイモンド 神父

(倉敷・玉島・水島助任) シルベスタ 神父

(倉敷・玉島・水島助任) 玉島住任

◇鳥取協働体(鳥取・倉吉) (鳥取住任) 朴 根培 神父

(倉吉住任) 肥塚修司 神父

(住田住任) 塩谷薫 神父

(イエヌス会) 長束修道院 住田富信 神父

(イエヌス会) 長束修道院 塩谷薫 神父

(みこころの家住任) 池尻広幸 神父

養徳勝士 修道士

イエヌス会 庚午修道院

ブルハスタント 神父

ヴェーマイヤー 神父

清水 弘 神父

越智昌樹 神父

口サド 修道士

愛徳修道士会

ヘンデリクス 修道士

牧田真一 修道士

長期目標と
中期目標の
関連性

いよいよ4月1日から2024年度の新しい歩みが始まりました。すでに、前回の教区報でもお知らせしていたように、2024年度から2033年度までの教区の長期目標と中期目標が、「2020教区代表者会議(シノドス)」の提案を受けて、以下のように設定されました。各小教区には、これらの目標の掲示を、それぞれの方法でお願いしています。

長期目標
2024〜2033年度
「ともに歩むあたたかさのある教会をめざそう」

中期目標
2024〜2026年度
「あたたかさの源泉に立ち帰る」(典礼活動)
2027〜2029年度
「あたたかさを育む共同体をつくる」(司牧活動)
2030〜2033年度
「あたたかさを広げる教会を築く」(宣教活動)

※1年ごと(短期)の目標は、事情が異なるそれぞれの小教区で必要に応じて設定していただくことになります。
【三年毎の中期目標】
今回は、三つの中期目標の

関連性について、少し掘り下げて考えてみたいと思います。ご存知のように、カトリック教会は、第二バチカン公会議(1962〜65年)の中で、公会議文書として初めて、この地上における教会のおもな使命を、預言職・祭司職・牧職という用語で説明しました。これらを分かり易い言葉で表現したものが、預言職↓宣教活動、祭司職↓典礼活動、牧職↓司牧活動です。これら三つの使命(活動)は、前回の教区報でも少し触れていましたが、時間と共に積み上げられていくものではないことに留意したいと思います。この点については、中期目標の立て方に弱点(難点)があるのは確かです。

そのため、「2020教区シノドス」後に出された司教教書(要約版)では、鳩のイメージで、くちばしと頭部(宣教活動)、心臓部分と胴体(典礼活動)、両翼と尾翼(司牧活動)というつながりで図式化していました。鳩は、そのからだのどの部分の働きが停止しても、飛ぶことはできません。これと同じように、教会の三つの使命は、出番があつてその時が来るまでは待機しておくイメージで

はなく、連動して同時に行われていかなければならないもので、「三重の使命」とも言われています。表現を替えると、中期目標は、直線的なものではなく、三重の使命が螺旋状に絶えず回転しながら上昇していくイメージです。連動して同時に行われなければならぬ三重の使命であるのに、三年毎の時間的な経過の中に、それぞれの活動位置づけていることには弱点があるものの、教会の三つの使命の一つひとつに、丁寧にスポットライトを当てながら、小教区、地区、教区の活動のあり方を全体として振り返っていただければ幸いです。

【三年毎の視点】

教会の三重の使命の中で、2024年度〜2026年度の三年間は、とくに典礼活動(祭司職)にスポットを当てて、小教区、地区、教区の活動のあり方を全体として振り返る期間です。第二バチカン公会議が、最初に討議して採択した「典礼憲章」(1963年)の中に、教会の三つの使命についての教えも要約されていますので、テキストを抜粋した後(§)、少し解説(↓)を加えたいと思います。

【祭司職】(典礼活動)

①§「典礼はまさしくイエス・キリストの祭司職の行使と考えられるもので、典礼において、人間の聖化が感覚的なるしによって示され、それぞれのしるしに固有なしかたで実現される」(「典礼憲章7」)。↓これは、それぞれ感覚的なるし(水、油、パンとぶどう酒、按手など)を用いて授けられる秘跡の中でイエス・キリストご自身が働かれ、聖霊の恵みによって人間が聖なる者とされるということです。②§「そして、イエス・キリストの神秘体、すなわち、その頭と部分によって、完全な公的礼拝が果たされる(「典礼憲章7」)。↓これは、キリストを頭とし、聖霊の交わりによって、その体の部分(肢体)とされたわたしたち一人ひとりが、キリストを通して、父である神に完全な礼拝をささげることができるという意味です。③§「それゆえ、典礼祭儀はすべて、祭司キリストとそのからだである教会のわざであるので、他にまさる聖なる行為で(ある)」(「典礼憲章7」)。↓したがって、典礼活動が、教会の三重の活動の中心に位置づけられるという考えが、

第二バチカン公会議の教えです。

そのために、最初の三年間(2024年度〜2026年度)、わたしたちは、教会の心臓部分とも言える典礼活動にスポットを当て、神からの恵みを受けて、神への礼拝を大切にし、神を中心にして歩む教会共同体のあり方について考えて行ければと思います。神からの愛といつくしみ(「神の恵み」)こそ、教会の「あたたかさ」が湧き出る泉なのです。ちょうど日本の教会においては、1年半前(2022年11月27日)から新しい「ミサの式次第」による典礼へと移行しました。この大きな転換期に、それぞれの教会共同体において、典礼活動の重要性を考える機会にしたいだけだと思います。

【預言職】(宣教活動)と

【牧職】(司牧活動)

①§「聖なる典礼は、教会の全活動を果たすものではない。人間は典礼に近づくことができる前に、信仰と回心へと召される必要がある。……教会は、唯一のまことの神と、この神がお遣わしになつたイエス・キリストをすべての人を知り、悔い改めて自らの道から回心するために、信

じていない人に救いの知らせを告げる」(「典礼憲章9」)。↓これは、教会の宣教活動(預言職)のことを説明しています。②「また教会は、信じている人にもつねに信仰と悔い改めをのべ伝え、さらに諸秘跡にあずかる準備をさせ、キリストがお命じになったすべてのことを守るようになつたすべし」(「典礼憲章9」)。↓このテキストは、司牧活動を意味するものですが、それが宣教活動に向けられていることにも言及しています。

世界シノドスの

テーマに合わせて

前回の教区報の中でも、「ともに歩むあたたかさのある教会をめざそう」という長期目標と中期目標は、2021年〜2024年をかけて準備され、開催された世界代表司教会議(世界シノドス)第16回通常総会の「ともに歩む教会のため―交わり、参加、そして宣教―」というメインテーマを意識して設定

されていることに言及してました。「交わり」とは、キリストと聖霊の働きによる神との交わりを実現する典礼活動を源泉としながら、教会共同体相互の交わりへと発展して行くことを示すものです。そして「参加」は、神からの恵みに支えられて、共同体のメンバーが自分にできることを意識し、共同体の使命のために奉仕することを意味しています。こうして、教会共同体の使命は、つねにすべての人を信仰と回心に導くために、福音を宣教することへ向かって行くべきなのです。

そのために、教区の宣教司牧の三年毎の中間目標の順序を、典礼活動、司牧活動、宣教活動という流れにしています。さらに「典礼憲章」は、S「それにもかかわらず、典礼は教会活動が目指す頂点であり、同時に教会のあらゆる力が流れ出る泉である。使徒的な活動が目指すところは、すべての人が信仰と洗礼を通して神の子となつて一つに集まり、教会の中で神をたたえ、いけにえにあずかって主の晩餐を食することにありからである」(「典礼憲章10」)と述べて、地上の典礼を通して、最終的な頂点が天上の典礼に連なることにある

ことを教えています。

「霊における
会話」を学ぶ

世界シノドスの動きと招きに合わせて、4月29日に、教区「宣教ひろば」が開催されます。この「宣教ひろば」のために、それぞれの小教区レベルでも「宣教ひろば」(宣教推進懇談会)を開催していただき、そのまとめのレポートの提出をお願いしました。その成果を分か合うために、今度は教区レベルの「宣教ひろば」が間もなく開催されます。その際に、世界シノドスの中で実践されている「霊における会話」という、分かち合いと識別のための新しい手法が説明され、わたしたちはそれを体験することになります。これは、聖霊の導きによって、神のみ心を識別しながら「ともに歩む教会」のあるべき姿を実現していくための重要な手段です。今後、わたしたちはこの「霊における会話」の精神や手法を、小教区、地区、教区レベルのあらゆる話し合いの中に活かすし、適応して行く努力が求められます。

2024年4月8日から12日まで日本の司教様方は、引退司教様を除き全員でアドリミナのためにバチカンを訪問します。アドリミナとは、各国の司教団が定期的にバチカンを訪問し、教皇様に各国と各司教区の状況を直接に報告するものです。以前は5年ごとのアドリミナでしたが、全世界で教区の数が増す中で、5年ごとのバチカン訪問は困難になっていくと聞いています。それでも、各国の司教団がそろってバチカンを訪問し、教皇様と親しく面談するアドリミナという習慣がなくなることはないでしょう。今回の日本司教団の公式訪問は、7年ぶりとなります。

アドリミナ、行ってきます！

な起点にしたいと思います。どうか、よろしくお願いいたします。

聖堂と聖パウロ聖堂でミサを捧げ、最終日には教皇謁見が予定されています。

1995年に故三末篤實教様に同行してアドリミナに参加した時には、各司教様方は教皇様と個別に面談を行いました。今回は全員一同に会しての面談の形式になっています。堅苦しい形式の面談から、教皇様の質問に司教様方が自由に発言して答えるという形式に変化したのも、フランシスコ教皇様の人柄によるのかもかもしれません。

皆様、このたびのアドリミナが有意義なものとなり、日本の福音宣教に豊かな実りをもたらすものとなるようにお祈りください。

原田 豊己 神父



主イエス・キリストの復活を祝う季節に、わたしたちが行う教区レベルの「宣教ひろ

叙階式 新司祭誕生

パドアのアントニオ 星野 倫淳^{とむ} 新司祭

3月20日（水・祝）に世界平和記念聖堂（幟町教会）で白浜満司教により司祭叙階式が執り行われた。司祭に叙階されたのは星野倫淳助祭。叙階ミサは、大分司教区長、森山信三司教をはじめ、東京カトリック神学院の担当司祭、東京教区の司祭や信徒、広島教区の司祭修道者信徒、新司祭の家族や友人など、の多くの参列者の祈りの中で行われました。なお、叙階後の星野新司祭の最初の赴任地は岡山教会となることが白浜司教より発表されました。



叙階式ミサの様子

司祭になって

星野 倫淳 新司祭

新司祭の星野です。3月20日の春分の日には司祭叙階のお恵みをいただきました。これまでの皆様のお祈りと様々な形でのご支援に厚く御礼申し上げます。もしそれがなかったとしましたら、私のような者が神からこのような大きなお恵みをいただくことはなかったでしょう。ですから、これから始まる私の司祭職は私のものでなく神のものであり、皆様のもの、そしてすべての方々のためのものです。どうぞそのように思われてください。私は自分の叙階記念カードのみ言葉に「良い羊飼いは羊のために命を捨てる。」（ヨハネによる福音10章11節）を選びました。このみ言葉は私が望んでいることをもつともよく表していると思われたからです。私が理想

とし、ぜひともそのようになりたいと望んでいる司祭像はイエス・キリストそのものです。主イエスは天の御父と聖心の一つにして羊たちをこのうえなく愛し、囲いの中にいる羊たちのためにも、まだ囲いの中に入っていない羊たちのためにもご自分のすべてをささげ、羊たちが永遠のいのちを受けるために、喜んでご自分の命を捨てられました。私もそのようになれたらどんなによいことでしょう。これが私の夢です。もしそれが実現したら、そのとき私は自分の人生に満足することでしょう。主とともに十字架の上で「成し遂げられた」と言い、「父よ、わたしの霊を御手にゆだねます」と言うでしょう。そのとき神は私のちいさな生涯をかけた大

きな願いをお聞き入れになり、そうして多くの人々が救われて天の国で永遠に続く幸せのうちにいるのを見て私は大いに喜び、そのために最もつまらない私のような者を用いられた神に厚く厚く感謝することでしょう。どうか主が私のこの望みをお聞き入れになり、ぜひともそのようにしてくださいませよう。皆様もどうかこれからもお祈りによつて私の司祭職を支えてくださいますようお願い申し上げます。



星野新司祭と新司祭のお母様の星野吉子さん

星野さん、おめでとう！

東京カトリック神学院養成者 星野さんの隣で、立派に奉仕する星野さん

林 正人 神父

まあいいニコニコ顔に、これまたまあいい包容力のありそうな体躯…どこか宗教を間違えたんじゃないかと思ってしまうようなその佇まい。歩く安心感！ それ故か、私が主任司祭を務めていた教会に実習に来てくださった時、星野さんは子どもたちに大人気でした。また大きく、はつきりとしたその声は、多くの高齢の信者さんたちに重宝されていました。

このように元々から多くの恵まれた資質を神様に与えられていた星野さん。ただしそれだけで長い神学生生活を歩み通せるはずはありません。信徒の皆様の祈りの支援はもちろんでしょうが、加えて星野さんの祈りの心、何よりも父なる神を崇める心が、自身を司祭職へと導きました。私は今年度(2023年度)、神学院養成担当者として再び

星野さんと交わりの時を持ちました。が、ミサを司式する

さんを、頼もしく見ていたものです。

さあ星野さん、長い神学生活の間、幾度も自身でイメージし、また仲間と語り合ってきたであろう司祭職に、貴方は踏み出します。司祭仲間として共に歩めること、とても嬉しいです。何処でも福音宣教の困難さはあるでしょうが、神様から与えられた大仏様のようなシルエツト、そして育て上げた祈りの心で、多くの人をイエス様の御許へ導いてあげてください。星野神父様の司牧の上に神様の豊かなお恵みが注がれますよう、お祈り申し上げます。



叙階式ミサの様子

司祭叙階 おめでとうございませう

厳律シトー会

トマス 鎌田 誠 修道士

星野倫淳さん、司祭叙階おめでとうございます。心からの祝福を送ります。

星野さんは、トラピスト会士であった頃は私の後輩の修道士でありましたが、東京カトリック神学院においては、私の尊敬する先輩でありました。

トラピストにおいては、星野さんの常に神様に対して真つすぐに信頼する姿勢が、とても印象的でした。そのような神様への信頼を兄弟たちに説く雄弁さは、いつも私たちを恵みの与え主であるキリストへ立ち返らせてくれました。また、病院に通院する兄弟たちの送迎係であったとき、その温かい人柄で兄弟たちを安心させ、いつも楽しく笑いに満たしておられました。そのような星野さんを見て、私は常々、「修道院の扉の中に閉じ込めておくには惜しい人だ」と僣越な

がら思っておりました。ある時、牛舎で一緒の仕事に入ったとき、私は冗談交じり

で星野さんに「教区から来るように

お声がかかったらどうする？」と聞いたことがありましたが、確か星野さんはニコニコしながら「神様のみこころでしたら(笑)」と答えておられたと思います。星野さんが広島教区に行かれたのは本当に主の不

思議な「みこころ」だったと、心から主を賛美いたします。

神学院においては、キリストと共にいる喜びが、星野さんの教話や説教から溢れ出し、主を伝える人の喜びの姿を学ばせていただきました。ありがとうございます。

星野神父様のこれからの働きの上に、主の豊かな恵みがありますように。



叙階式の参列者一同

聖なる人？

広島教区神学生養成担当 服部 大介 神父

も
あり、神への霊的

として来られて面接
をすることになりま
した。修道者として
長年過ごされたこと
もあり、神への霊的
な思いが強く感じら

星野さんに最初に出会っ
たのは、東京カトリック神
学院の入学規定のぎりぎり
の年齢であった39歳の時で
した。北海道の当別トラピ
スト修道会の修道者として
10年も過ごしてこられた方
が広島教区の神学生希望者

れる方でしたが、逆に観想
修道会での生活が信じられ
ない程よくしゃべる人だな
という印象でした。自分が
とにかく最初にお願いたし
たのが、年齢のこともあるの
で、健康のために痩せる努
力をしてほしいということ



彼の
独特の
体形と
風貌から
練成会な
どもたち
には人気
者になっ
ていまし
たし、不
思議な魅
力のある
人でした
が、修道
生活で身
についた
ことなの



か、自分のことをあまり話
すことをしない上、霊的な
言葉も多い人なので正直本
当の姿が分からないという
感じでした。神学院でもし
ばらくしてからは厳しい指
摘もあつたようで、正直な
姿を素直に出すこと、説教
でも自分の言葉で話すよう
お願いしていました。結局
自分も星野さんがどのよう
な人なのか分からないとい
う思いがまだあります。
自分が最初からお願いま
していた痩せる努力に關して
は、残念ながら全く成果が
見られませんでした。何
とか今回司祭叙階のお恵み
を受けることになりました
た。司祭としてのお恵みを
受けてこれから歩んで行か
れます。この人が本当に聖
なる人なのか、それともた
だの変わった人なのかを一
緒に見守っていきたくと思
います。

星野新司祭！ おめでとうございます！

廿日市教会 有野節子

「今日からお世話になり
ます星野倫博神学生です。

廿日市教会の皆様どうか
よろしくお願ひいたしま
す！」6年前の白浜司教様
のこのお言葉によって私た
ちは星野神学生を出身教会
として迎ええることにな
りました。

廿日市教会献堂以来初め
での出来事でした。当時の
主任司祭だったアンリ神父
様は「星野神学生を私たち
は本当の家族として物心共
に支えていきましょう！」
と意欲的に受け入れ私たち
を鼓舞されました。

「星野さん」親しくそう
呼ばせていただくのも今日
で最後です。あれから6
年。星野さんは教区司祭へ
の道を臆することなくまっ
しぐらに進まれましたね。
何の迷いもないかのように
お見受けしたのは、むしろ
ご自分には合っていたトラ
ピスト修道士としての10年

間の生活があつたに
もかわらず、新し
い召し出しを受けて
扉を飛び越えるため
の葛藤の末の清々し
い志のせいかもしれ
ませんね。真の召し出しだ
というしるしを今日の叙階
式で神様は私たちにお示し
になりました。

さあ、これからは星野さ
んの持ち前の明るさと耳に
心地良い語り口を通して、
さらには星野さんの弱さを
も使つて、神様が思う存分
働ける道具となられますよ
う、まるで親になったよう
な気持ちで世の荒波へ送り
出したいと思ひます。

星野新司祭！心からおめ
でとうございます！



廿日市教会信徒の皆様

教 区 の 動 き

第一回「宣教ひろば」を開催します！

日 時：2024年4月29日（月・祝）13時～17時
 場 所：広島カトリック会館（広島市幟町）
 参加要請者：小教区全司祭、各小教区信徒代表1名、
 修道者（希望者）、他オンラインによる
 自由参加

「宣教ひろば」って

何ですか？

昨年十月にバチカンで開催された世界シノドス第一会期が終わり、フランシスコ教皇は「どのようにすれば私たちは宣教においてシノドスの教会になりえるか」ということを、今年十月に始まる第二会期のために各教区で深めることを求められました。これに応じて広島教区では「宣教ひろば」という名称で集いを持ち、事前に各小教区で話し合われた2つのテーマについて話し合うことになりました。

「宣教ひろば」では

何をしますか？

昨年十月の世界シノドス第一会期に参加した3人の

「霊における会話」って

何ですか？

日本人の中のお一人であるシスター弘田しずえ（ベリヌ・メルセス修道女会）をお招きし、世界シノドスで何が話し合われたかという話をお聞きします。その後第一会期で実際に行われた「霊における会話」を実体験します。

「聞く」ことを大切に

し、その中で聖霊の働きを実感できる話し合いの手法です。世界シノドス第一会期では、今までのシノドスと全く異なり、全ての話し合いがこの方法で行われました。東京で行われた「日本シノドスのつどい」（3月7、8日）に白浜司教と広島教区から3人のメン

バー（司祭、修道者、信徒代表各1名）がこのトレーニングを受けました。

「宣教ひろば」に各小教区

から参加する人は何をすればいいのですか？

参加者の方々は当日「霊

における会話」とは何かを深く理解し、実際に世界シノドス第一会期で行われたのと同じ方法で実践（練習）をします。その体験を小教区に持ち帰っていただき、小教区司祭と一緒に各小教区で「霊における会話」を広めていただきます。

「日本シノドスのつどい」

って何ですか？

日本の全司教と全ての教区から3名ずつのメンバーが1泊2日で日本カトリック会館に集まり、「霊における会話」を出席者全員で体験する集いです。世界シノドスのために結成されたシノドス特別チーム（担当：菊池功大司教）が企画しました。

「シノドス特別チーム」

って何ですか？

教皇庁からの指示に従う形で、2023年末に日本

の司教協議会に設置されたチームです。メンバーは菊池功大司教、小西広志神父とアジアの大陸別シノドスに参加した三名（西村桃子さん、辻明美さん、高山徹神父）で構成しています。2024年10月の第二会期に向けての取り組みを担当します。

実際に

「日本シノドスの集い」に参加してどうでしたか？

参加して感じたのは、日本のカトリック教会が「霊における会話」の手法を本気で広めようとしていることです。「霊における会話」を実体験すると、全員の意見や思いを雑念なく「聞く」ことの大切さ、普

段それができていないことを改めて感じました。カトリック教会には多くの課題がありますが、解決志向ではなく信者同士が交わることで、参加することを目指すことの大切さを感じました。

「霊における会話」は

どのようにして

始めるのですか？

祈りの雰囲気の中で「霊における会話」が始まります。各自祈りながらテーマについて沈黙のうちに思いを巡らし、心に響いたことをメモします。次に一人三分程度の時間で順番にメモに書かれた自分（I）の思いを話します。この時他の参加者は「聞く」ことに専



広島教区の代表として「日本シノドスの集い」に参加した3人のメンバーと白浜司教

念します。話されたことにコメントすること、解決策を提示することをしてはいけません。一人が終わると次の人が話します。こうして十名程度の参加者が全て自分の話をします。

その次は何をするのですか？

こうして参加者が自分の思いを話した後、今度は参加者（You）から聞いた話で心に響いたことを一人三分程度で分かち合います。この時もコメントは厳禁です。最後にこのグループ全体（We）のまとめをしますが、合意できること、できないこと、課題の三つに分けて全員の合意を取ります。

「霊における会話」全体を通して聖霊の働きを感じ、感謝の祈りのうちに終わります。

白浜司教からのメッセージ

広島教区の皆さん、昨年十月に開かれた世界シノドス第一期期では「霊における会話」という手法が示され、世界のカトリック教会がこの手法を取り入れて「交わり、参加、宣教」を推進する教会づくりを目指すことになりました。広島教区でもこの手法を取り入れ、広く皆さんと交わりを持つことを始めていきたいと思います。四月二十九日の「宣教ひろば」はその第一歩です。各小教区から来られる司祭、修道者、信徒の方とともに、あたたかさのある教会を目指して一緒に歩んでいきたいと思えます。

(平和の使徒推進本部 田中 靖)

J-CaRM 広島便り

Sinulog Festival 2024

国際イーグルズ・マカバヤンクラブと地元カトリック教会のフィリピンコミュニティが主催する鮮やかなシヌログ祭が、1月19日に福山カトリックで開催されました。このイベントは、教会をフィリピンの文化、信仰、そして喜びで満ち溢れる場所に変え、さまざまな背景を持つ人々が一つとなる機会となりました。シヌログ祭は、フィリピンの伝統に深く根ざしており、フィリピン人の異教の過去とキリスト教の受容を記念しています。又、セブのサント・ニーニョを祝う、最も有名で歴史的なフィリピンの宝物の一つでもあるのです。福山カトリック教会で行われたシヌログ祭では、ダイナミックなダンス大会と魅力的なビューティーコンテストがハイライトされ、複数の県から多数のチームが参加し、互いに祭りの精神を体現し、才能を披露するために熱心に参加しました。

プログラムを通じて、各グループは色鮮やかな衣装を身にまとい、準備したビートと音楽に合わせてリズムカルに踊りました。各パフォーマンスは、教会の雰囲気明るくするだけではなく、「信仰・伝統・団結」に関する物語を語りました。ビューティーコンテストは、祭りの祝賀に優雅さと品格を加えました。異なる背景を持つ参加者が、憧れのステータスを競い合い、プレゼンテーションを通じて祭りの本質を体現しました。これらのプログラムによって、教会は笑顔と笑いに満ち溢れました。

福山のシヌログ祭を特別なものにしたのは、異なる文化的背景と信念を持つ個人が一つにまとまり、団結、また、互いに共有する喜びの雰囲気を育むことができたからでしょう。このユニークな空間では、互いの違いから生まれる壁がなくなり、祭りの持続的な平和、調和、そしてコミュニティのメッセージを反映しました。ダンス、音楽、そして共有された伝統を通じて、福山カトリック教会のシヌログ祭は、人々を一つにする文化のお祭りとなりました。互いの違いを認め合い、喜びと団結の素晴らしさこれからも続くことを心よりお祈り申し上げます。

日本国際マカバヤンイーグルクラブ
会長：大城 誠一



津和野 乙女峠まつり

今年の5月3日の73回目「乙女峠まつり」は大分司教区・森山信三司教様の司式により、津和野乙女峠証し人の遺徳を偲ぶミサを捧げることになりました。「乙女峠まつり」において皆様とともにこの列福・列聖運動を進めてまいりたいと思います。

また、5月2日の前夜祭では「ザビエル時代からいただいた信仰を現在までつないだ津和野の証人」との演題でデ・ルカ レンゾ神父（長崎26聖人記念館館長）の講話をいただくことになっています。

2024年 5月3日(金)

10:15 開式・聖母行列
(津和野カトリック教会～乙女峠)

12:00 野外ミサ(乙女峠)
司式 森山信三司教
(大分教区)



前夜祭 5月2日(木)
時間 19:00～
講演 デ・ルカ レンゾ神父
(イエズス会司教・長崎26聖人記念館館長)
場所 幼花園ホール
(津和野カトリック教会隣り)



ミサの様子はYouTube
で配信されます。



外国で勉強している神父さまのお話

司祭の生涯養成のため、また特に近年増え続けている日本語を母語としない信徒のみなさんにも、より良い奉仕ができるよう、語学習得の必要性を強く感じていた教区。そこで、司祭叙階から数年の司祭たちに語学研修や外国での暮らしを体験する機会を！と海外に送り出す試みを始めました。最初の白羽の矢が立ったのは、2021年に叙階された三宅神父様。2年間の予定でフィリピン研修中です。

フィリピンのタガイタイより 三宅仁孝神父

広島教区の皆様こんにちは。わたしは今、フィリピンのタガイタイにあるMSP（フィリピン宣教会）の神学校で生活をしながら、英語研修をしています。昨年5月からこちらでの生活が始まり、もうすぐ一年が経とうとしています。基礎から学ばせていただいているのでまだまだ先は長いですが、こちらに来たときよりは成長できていると思います。ミサの司式なども、当番に入って実践をさせていただいています。勉強だけでなく、フィリピンの文化にもより積極的に関わっていき、様々なことを学んでいけたらと思っています。



生活については、食べ物合わないとか気候が辛いということもなく楽しく過ごしています。たまに熱が出て、もっとひどくなったらどうしようと心細くなることもありますが、こちらの神父様や神学生、スタッフの方々がとてもよくしてくださり、今日も元気にやっています。

英語研修の残りの期間も良い学びの時となるようにお祈りいただけたら幸いです。わたしも、広島教区の皆様がよりよく神様との歩みを続けられるようにお祈りしています。

70 海峡からの風

下関労働教育センターだより

2024年は能登大地震と言うツライ幕開けになった。被災者の皆さまにお見舞い申し上げ、救援復興の為に懸命に働いてくださっている方々に感謝いたします。

東日本大震災から13年、どうしても原発について考えたい。今回の被害が大きかった珠洲市はかつて原発建設の候補地だった。最寄りの志賀原発はたまたま運転休止中だった。震源地近くには柏崎から若狭湾にかけて多数の原子力施設が立ち並ぶが、運良く津波や液状化の被害を免れた。3・11の教訓は「たまたま」とか「運良く」では安全は担保できない、と言うことではなかったのか？

福島第一原発、「もんじゅ」や廃炉を待つ他の原発、原発のゴミの行方などの将来的な費用を考えた時、経済的にも破綻しており、安全性も含めて原発は当時の流行り言葉「オワコン」（終わったコンテンツ）と思っていい。ところが、目先に動くお金とSDGsを誤用して再び原発推進に向かい、私が働き始めるより前から稼働している

原発も私が随分ボンコツになり定年を迎える年になっても尚稼働を続け、60年を超えて稼働させると言う。

同じく年始早々に下関の対岸、北九州小倉の商店街で火災があり仲間の焼きうどん発祥の店も被害にあった。数年前二度の火災で大きな被害を受けた日過市場等100万都市の中心部に「昭和」「戦後」の佇まいを色濃く残している商店街が活気に満ちて残っているのだが、防災の観点からは問題だらけで、ちよつとしたヒューマンエラーで大きな被害をもたらすことになる。「オワコン」としてクラッシュ&ビルドが安直な道だが、昭和世代としてはノスタルジックに安全対策を施して残して欲しい。

昭和の名残をいっぱい溜め込み50年を超えた下関労働教育センターは呼称をロクスビよりやまに変えただけでなく、様々な新たな取り組みを行って「オワコン」にならない様にもがいている。今年も応援よろしく願います。

(大城 研司)

地区便り

山口島根地区

*2023年度

平和アピール1981報告

2023年度の山口・島根地区平和アピール1981は、去る2月11日、80名の参加者を得て、山口教会で開催された。午前中は白浜司教様の司式による御ミサと講話、午後は3つのグループで分かち合いを行った。司教様には「教皇フランシスコの核兵器廃絶のメッセージを受けて」と題してお話し頂いた。今問題なのは、ウクライナやパレスチナ・ガザであって、核廃絶は問題の核心ではないのではないかと、疑問を持つ方もおられるに違いない。しかし、司教様のお話しを伺いながら、核廃絶を訴えることが



そのまま戦争反対につながるのだと腑に落ちた。司教様は軍都広島島の歴史から語り始められ、原爆の悲惨さ（それは戦争の悲惨さそのものでもある）に言及され、核廃絶のためアメリカの二人の大神司教様と「核兵器のない世界のためパートナーシップ」を宣言したと報告された。アメリカで反核を訴えることがどんなに大変なことか、想像してみる必要がある。そのための支援の一つとして白浜司教様は「核なき世界基金」を設立され、反核平和のために尽力する人びとや団体を支援なさっている。ウクライナやガザの平和のために、何もできない私たちが「核なき世界基金」に協力することで、微力ながら平和に貢献できると参加者の一人が語っておられたのが印象に残った。なお、この日の司教様の講話は広島司教区のホームページから閲覧できる。

岡山鳥取地区

*2023年度第3回

岡山鳥取地区宣教司牧評議会

1月8日岡山教会で、2023年度第3回岡山鳥取地区宣教司牧評議会を開催し

名古屋教区から献金のお礼

＋主の平和

白浜司教様、そして広島教区の皆さんへ

この度の能登半島地震に際して、名古屋教区へ多くの支援金をお送りくださり本当にありがとうございました。名古屋教区事務局の手を煩わせないようにと、広島教区でまとめ、一括して送ってくださった配慮も心から感謝します。私たちは、広島教区内の小教区の皆さんや修道院、幼稚園、カトリック学校やその他施設、また個人からの寄付があったことを伺っていますが、この紙面を借りてお礼をさせていただきます。皆さまの温かい思いと祈りを心に留め、被災地域の人たちへの支援活動や教会の復興のために大切にに使わせていただきたいと思います。

被災地の状況は報道などでご存じのことと思いますが、電気や水道などのインフラは徐々に整備されつつあるものの、人々の生活状況は将来を見通せないような苦しい状況に置かれています。名古屋教区としては、今後、完全に壊れた輪島教会や被害を受けた他の教会の再建、修復などをしていきますが、教会は被災地にずっと留まり続けますので、被災地域の人々のために教会を拠点にした息の長い支援活動を継続していくことを考えています。これからも皆さまのお祈りとご支援をよろしくお祈りいたします。

感謝のうちに。

カトリック名古屋教区
司教 松浦 悟郎

広島地区

*「聖トマス小崎巡礼」の

報告とお礼

推進チーム・活動グループ・各小教区からの報告などがあ
り、また、2024年度の
「教区召命合同祈りの集い」
の会場を倉敷教会とすること
を決定しました。

2024年1月21日「第33回聖トマス小崎記念ミサ及び巡礼」が白浜司教様司式にて4年ぶりに従来の形で三原教会に於いて行われました。天気予報は雨！そして一体どれくらい巡礼者が来て下さるであろうかと心配しておりましたが、穏やかな晴天の下、ミサには110名の参加者があり、恒例の三原カレーを食べ、ルルド前で記念撮



徒歩巡礼の様子

影、祈りつつ出発、トマス像に詣でました。本郷駅までの13キロを完歩されたのは最終的に58名でした。

福山、尾道、笠岡、岡山、広島、呉、三篠、広島福音の光修道会、の皆様あわせて30名、賛美を協力してくださいました。ファイリピン人バンド、三原教会に前泊して、26聖人殉教DVD「我、世に勝てり」を見て、巡礼に参加してくださった、日系ブラジルの方々、多くの皆様に支えられた巡礼の一日でした。

この度の能登震災で家族を失った人の悲しみに寄り添いつつ、「この世は儂いものです。永遠の命を失わぬように」と母へ文を残したトマス少年の言葉を胸に刻みましよう、司教様がお話をされ、命をいただいて今を生きる感

謝と、皆様にお会いできる喜びに満ちた巡礼となりました。服部神父様、アルナルド神父も駆けつけてくださり、コロナ前のいつものお顔がそろいで私達もうれしかったです。

司教様、神父様方、三原教会にお越しくくださった皆様、有り難うございました。(三原教会)

***2024年**

広島キリシタン殉教祈念祭 殉教から400年、殉教碑の建立から40年の節目の年となる今年の広島キリシタン殉教祭は2024年2月12日(月)に行われました。

9時30分から己斐殉教碑の前で、白浜司教司式による「祈り」と「広島キリシタン殉教の碑」の歌を参加した40人で歌いました。

その後十字架を先頭に、観音町教会まで徒歩巡礼をしました。

観音町教会でのミサは10時20分から、白浜司教と6人の司祭の共同司式で行われました。4年ぶりの聖歌を入れたミサは荘厳なものとなりました。

「愛の殉教者」として、わたしたちは生きていくことが大切であるとの思いを強くしました。ミサの参列者は75人



広島市西区己斐の殉教碑に集まった参加者

で、遠くは愛知県豊橋教会の方もおられました。

観音町教会信徒の川本隆史さんが講師として、「チー スリク師・殉教碑・『血と雨』」の講演会が11時30分から行われました。

講演会後の会食では「おむすび・豚汁」が振舞われました。食事の後、「福者ペトロ岐部と187殉教者に取り次ぎを願う祈り」を捧げて散会しました。

***2023年度**

教会学校リーダー会主催 「リーダー研修会」

新年を迎えたばかりの1月13日(土)、長束黙想の家に教会学校のリーダーを対象とした一日研修会が開催された。講師のミカエル金神父はイエスの言葉をヒントに祈りと奉仕の支え合いについてご指導くださいました。

「人々が、あなたがたの立派な行いを見て、あなたがたの天の父をあがめるようになる」楽しく活動することが大事。楽しそうであれば、誰でも参加してみたくなるものだから。

一般社会の「子育て支援」を教会に当てはめるならば、教会では「信仰育て支援」が必要であろう。具体的には、信徒の親を一人にさせないこと。リーダーは子どもだけでなく親にも寄り添い、教会学校が親にとつての拠り所となるようにしたい。目の前にいる人のために拠り所となることは「自分の十字架を背負って」イエスについていくことである。金神父はこの言葉をミサの最後にもう一度繰り返された。リーダーとしての心構えを新たな視点で示された研修会となった。

***平和アピール**

1981記念行事

2月25日(日) 世界平和記念聖堂で聖ヨハネ・パウロ二世来広記念ミサが白濱満司教の司式、説教はロクスヒよりやま(旧下関労働教育センター)の林尚志神父によってささげられました。ミサは約200名参加しまし



講話で熱弁を振るった林尚志神父

た。

その後、11時より、多目的ホールにおいて、林尚志神父の講話があり、約80名参加しました。講話は「それでも、もう一度戦争の無い世界を目指して!」をテーマに林神父から戦時中の体験や環境問題についてお話を頂きました。現在、ガザ、ウクライナで戦争の出口が見えない状況ですが、互いの違いや多様性を認め合うことが平和な世界につながることをわかりやすく、ユーモアを交えたお話を聞いていただき、時間もあっという間に過ぎていきました。

その後、13時30分より平和記念公園の慰霊碑前にて、萩喜代治神父より43年前の聖ヨハネ・パウロ二世来広時のお話をいただき、約20名が参加し、祈りと歌を歌い終了しました。

青少年の活動

チューブ参加者 過去13年最多の快挙!

『めざせ、参加者50名!』この目標を掲げ、募集を行ってきた「第58回中国ブロックカトリック高校生大会(チューブプロ2024)」。お陰様で、

目標人数を遥かに凌ぐ、70名の中高校生からお申込をいただきました。

この人数は、昨年参加者の3倍、更には過去13年最多!新体制でのチューブプロ2年目で、ここに到達できたのは、多くの方のご協力あってこそのことだと感じています。募集にご協力くださった皆さま、本当にあ

りがとうございます。

これを書いている現在は、3月中旬。目下、開催にむけての準備真っ最中です。昨年は、黙々と企画室で作戦を練り、準備に邁進しておりましたが、今年は中高校生が強い味方に!気づけば、平日に集まったり、各自家に持ち帰って準備をしたりと、まるで文化祭



「10週間祈りの旅」を終えて

長束黙想の家
住田 省悟 神父(イエズス会)

昨年9月、白浜司教様主導により、広島地区「10週間祈りの旅」実行委員会が設立されました。

実行委員会(白浜司教、荻神父、伊藤神父、援助会シスター木村、ベルブム・デイ宣教会シスター橋本、住田神父)の一致していた思いは、この祈りの旅を通して、教区の方針(聖霊に導かれながら、日常生活の中で神の思いを知り、それを実践していく

加者や同伴者はそれなりの覚悟をもってこの旅を始めたのです。

おそらく、参加者や同伴者の多くは、「10週間祈りの旅」がどのようなに進んで行くのか、期待と不安の入り混じった思いに駆られていたと思います。けれども、個人的な面談や全体会(傾聴による分かち合い)の機会を重ねていくにつれ、参加者全員が意識し始めた気づきはおもに三つのことでした。

芽生え始めていることでした。

「10週間祈りの旅」は、2024年2月3日、最後の分かち合いをもって終了しましたが、参加したすべての人々にとつて、『終わりは定着した祈りを継続していく』『始まり』となっただけではなく、そこに生き生きとしたあたたかさのある共同体が存在していたということでした。



参加の条件は、「毎日少なくとも30分程度の祈りの時間を持つこと、週に一度同伴者と面談の機会を持つて祈りの指示や助けを得ること、そして、参加者全員は定期的に集まって体験していることを分かち合うこと」でしたが、参

「祈ることが定着しつつある」と、二つ目は、参加者にも同伴者にも「神が具体的に関わってくださっているという喜び」が与えられていること、そして、三つ目は、定期的な傾聴による分かち合いを通して、参加者全員に「気づきや共鳴による連帯の意識」が

皆様はこのことに招かれています。祈りの旅の参加者に、是非とも、体験を分かち合ってもらってください。そして、祈りの旅にご参加ください。生き生きとしたあたたかさのある共同体を作っていくために。



平日の学校終わり、企画室に集まる中高生たち

前のような雰囲気、こちらまでワクワクさせられています。そうとなれば、こちらも更に気合いが入ります。早くも来年の目標は「めざせ、参加者100名!」これからも、チューブプロやそれに関わる子どもたちのために、お祈りいただければ幸いです。

そして、チューブプロに参加してくれたみんな!次は5月、乙女峠の巡礼(night walk)で会いましょう!

(青年活動企画室 益田)

2024年少年の集い乙女峠の巡礼
わたしをお使いください
-主催 山口島根地区少年の集い-

日程	5/2(木)~3(祝・金)
場所	徳佐駅前~津和野教会
参加費	1,000円

*巡礼のご参加には、お申込が必須です。
詳細案内をお送りしますので、青年活動企画室まで、お気軽にお問合せください。
Mail: hsjc555@gmail.com
(青年活動企画室/益田)



桜の花が咲く中、修道士として生活をされていた星野神父が叙階された。その修道士であった経験を私たちに伝えてほしい。(み)